

LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024～ インクルーシブ教育 実践事例

事例の活用について

※本事例の知的財産は投稿者に留保されます、使用される際には出典として
「LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024 組織名」 を記載ください。

■基本情報

組織名： 辰野町立辰野西小学校

所在地： 長野県上伊那郡辰野町
※都道府県・市区町村

氏名： 福島 徹

■インクルーシブ対応を検討するきっかけとなった児童・生徒（※以下「対象の子ども」と略）について

対象の子どもの学齢 選択してください。

障害種別：

- 知的障がい、知的障がいを伴う ASD
高機能自閉、アスペルガー症候群 読み書き障がい
注意欠損多動性障がい (AD/HD) 肢体不自由
聴覚障がい 構音障がい 視覚障がい 病弱
重度重複障がい その他（ ）

主訴（主な困り）

- 読む 書く 聞く 見る 話す 記憶する 移動する
その他

その他補足

（ ）
ほとんどの漢字の読み書きが困難で、選択肢を用意しても、誤ることがある。漢字を文字としてとらえることが苦手でも、読み上げを使うと熟語の意味はとらえることが出来ている。
本人は、漢字学習に対する意欲は高く、選択肢の問題やキー入力での漢字候補から選んで文章を作成する活動では、集中して取り組むことができ、積極的に漢字を使って文章を作成しようとする意欲も高い。

■対象の子どもが利用している ICT について

①利用端末（ハード） タブレット PC その他（ ）

②OS Windows MacOS Chrome Android iOS その他

③使用した ICT の機能やアプリを教えてください。複数あれば、ボックスを追加して記載してください。ネイティブアプリ（最初から搭載されているアプリ）の URL は記載不要です。

名称： iPad に標準装備されているアプリ「Keynote」
紹介 URL：

名称： iPad に標準装備されているアプリ「Pages」
紹介 URL：

④上記の ICT を活用して、対象の子どもの困りをどのように軽減されたかを詳しく記載ください。

Keynote: スキャナで読み取った問題プリントを貼り付け、問題文に音声挿入し読み上げ問題にした。 また、漢字には選択肢を用意して選べるようにした。

Pages: 漢字プリントでは、本人が手書き入力にこだわっているため漢字問題をキー入力し、候補から適切な熟語を選んで手書きするようにしている。
文章作成では、作成したい内容をしゃべりながら音声入力し、内容を読み上げ機能で聞き返しながら、適切な表現に修正しながら、もう一つのタブレットへ清書としてキー入力している。それをプリントアウトして提出する。

■インクルーシブ対応状況について

① インクルーシブ対応の検討の 児童生徒は、どの範囲まで利用が可能ですか？

教科	<input type="checkbox"/> 全ての教科で使用可能 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の教科のみ使用可能
場所	<input checked="" type="checkbox"/> 通級等のみ <input checked="" type="checkbox"/> クラス限定 <input checked="" type="checkbox"/> 学年限定 <input checked="" type="checkbox"/> 学校全体
利用シーン	<input checked="" type="checkbox"/> 宿題 <input checked="" type="checkbox"/> 授業中 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期テスト <input type="checkbox"/> その他 ()

② 周囲の児童生徒が ICT を使用するにあたり、個別の許可が必要ですか？

はい いいえ

■インクルーシブ対応に向けての工夫について

①前問で、「いいえ」と回答された方にお伺いします。環境整備に向けた実施事項/工夫点について記載ください

実施事項/工夫点

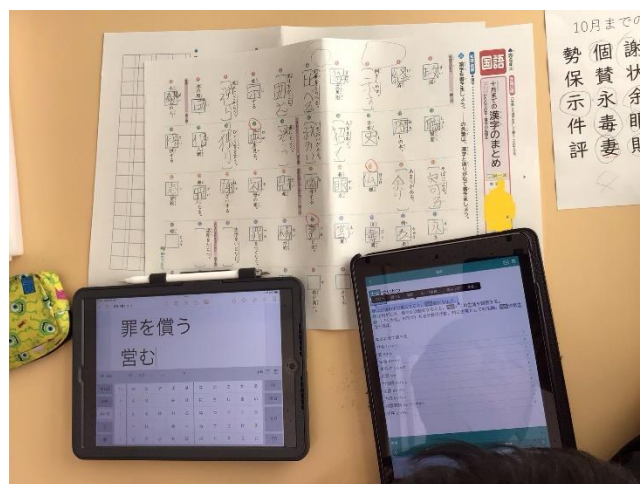
導入にあたり、保護者は「ICTを使うことは楽をすること」との認識がありなかなか公に利用することができず、通級の場のみで利用していました。

通級の場で利用することで本人の意欲や学習へ向かう姿勢の良さを伝えたところ、保護者の理解が少しずつ進んでいきました。

クラス担任の理解があり、徐々にクラスでの利用につながっていきました。

■その他

参考になる写真があれば、こちらに添付してください。



■変化や効果について

①対象の子どもにどのような変化がありましたか

「書く」ことにエネルギーを費やすことがなくなったため、文章の内容や言葉の表現に意識を向けることができ、周囲も驚くような文章が作成でき、本人だけでなく保護者の理解が進みました。

漢字が覚えられなくても、漢字を使って文章を作成しようとする意欲や態度が高まり、タブレットの利用が自分にとってプラスになっていることを本人が実感できるようになってきました。

本年度最後の参観日で『感謝したいこと』として作文発表し、その中のひとつに支援のおかげで「教科書読みが楽しくてきた。」との文章が綴られていました。

対象の子ども以外の児童・生徒や、学校全体にどのような変化がありましたか

どの子どももタブレット活用が当たり前になってきたので、抵抗なくクラスでの利用につながっています。